

⑧ 天皇址



見上げるような天皇址鎮座場所は私有地に付注意

天皇址は元は別の場所にあったという。

近くにある廣田神社の鳥居の近くに
天皇址の鳥居があったが現在では見えず。



天王址（埃乃宮址）ニ就テ

昔神武天皇開國ニ方リ其御東征ノ時御駐在アリ
 シ地ニテ御手ヲ洗ハセラレシ川ヲ御手洗川ト稱フ南ニ
 衣掛尾アリ（みぞの尾トモ稱フル地名アリ）此ノ地御衣
 ヲ召シ更ヘサセラレシ處ト云フ（みぞハ御衣ナリ）昔
 串戸以南一帶ノ地ヲ「合ひの浦」ト稱フ（旧記参照）
 蓋シ其ノ稱アルハあひの宮址アル所以ナリ（あひハ埃ナ
 リ）然ルニ今（昭和二年）ヲ去ル約七百年即嘉禎年
 間嚴島外宮社造營アリテヨリ地御前村ト改稱セリ
 （嚴島由来記参照）埃乃宮址（天王址トモ云フ）ハ串戸
 ノ西端ニアリテ鳥居ノ礎石其跡形ノ如ク存在ス始
 メ天皇此ノ地ニ御駐屯アラセラレシガ時々高潮襲フ
 惱ミアルヲ避ケサセラレ遂ニ其ノ西ニ玉座ヲ遷サセラレ
 シト云フ（今ノ八坂神社之也由テ此地ヲ大幸ト稱フ）

天王址（埃乃宮址）に就て

昔 神武天皇 開國に方り 其御東征ノ時 御駐在あり
 し地にて、御手を洗はせられし川を 御手洗川と稱ふ 南に
 衣掛尾あり（みぞの尾とも稱ふる地名あり）此の地 御衣
 を召し更へさせられし處と云ふ（みぞは御衣なり）昔
 串戸以南一帶の地を 「合ひの浦」と稱ふ（旧記参照）
 蓋し 其の稱あるは あひの宮址ある所以なり（あひは埃な
 り）然るに 今（昭和二年）を去る約七百年 即 嘉禎年
 間 嚴島外宮社造營ありてより 地御前村と改稱せり
 （嚴島由来記参照）埃乃宮址（天王址とも云ふ）は 串戸
 の西端にありて 鳥居の礎石 其跡形の如く存在す 始
 め 天皇 此の地に御駐屯あらせられしが 時々 高潮襲ふ
 惱みあるを避けさせられ 遂に 其の西に 玉座を遷させられ
 しと云ふ（今の 八坂神社 之也 由て 此地を大幸と稱ふ）

【注】

○ 嘉禎年間 一一三五〜一一三五八

四条天皇 （將軍）源賴經 （執權）北条泰時